

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

いい人・いい音

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

第 30 号

2025 年 1 月 4 日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団
編集：専務理事・事務局長 三浦達也
住所：〒163-0633
東京都新宿区西新宿1-25-1
TEL: 03-3349-6194
FAX: 03-3345-6388
<https://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>

若い世代の活躍と音楽コンクールの意義… 三善晃先生の偉業に学ぶ



最近の若い世代の活躍は分野を超えて大いに見聞きするところですが、スポーツや将棋など、分野を代表する人たちの大活躍に巻き込まれて、ファンならずとも一喜一憂し、大きな話題になります。ジャーナリズムの取り上げ方とも関係しますが、世界各地で開かれる大きな祭典の様子が、現在ではインターネットの普及も相俟って、昼夜を問わず世界を駆け巡り、それによって大きな興奮と感動が生まれます。音楽でも同様のことが言えます。強い興味を持って世界各地で頻繁に開催されるコンクールの白熱した舞台の演奏に接して、自分の楽しみ方や感じ方を確かめたり、順位の結果に重ねたりしよ

うとする聴衆も多くなっているようです。音楽会の演奏や雰囲気と余韻を純粹に楽しむのとは別の聴き方です。それらの本番は参加者には普段築き上げてきた練習の発表の場であるとともに、未知の技術や語法やアプローチを学び取る貴重な機会ですし、結果的に個人のみならず全体の演奏レベルを引き上げる大きな一助になります。すでに古代ギリシャのオリンピックでも芸術の神アポロンに捧げるコンクールがあったそうですから、優れた芸術の技を求め、それを扱う者を称賛するのは古今東西を問わずということでしょう。

他方そのための周到な準備や音作りを日々繰り返し緻密な作業と、本番における表現の差異も拡大しているのではと、現状を考えます。芸術と括られるジャンルでは新たな創造を目指す努力と実演で国際的な観客や聴衆に確実に伝える方法が問われ、そこに他者に認められたいとの表現者の強い思いも重なります。最近では音楽コンクールを企画、主催する側でも特徴をより重視する姿勢を見せ、参加者と地域の交

ピアニスト・東京藝術大学名誉教授

植田 克己

(当財団音楽分野選考委員長)

流を図ることも目立ちます。コンクールでは勝敗はなくて、以降の活動に関わる自己啓発の一つともいえそうです。

ところで全音楽譜出版社から三善晃先生の作品目録「2023」が発行されているのを知りました。事実のみが綿密に記載されていて、これ自体が日本音楽界の大きなモニュメントと成り得るものです。三善先生はかつて当財団の評議員、音楽選考委員長に就任されておられ、戦後の日本を牽引された方で、やはり若い頃に音楽コンクールの作曲部門で第1位を獲得されています。その後の、管弦楽、独奏曲、室内楽、合唱曲、邦楽器を取り入れた作品、或いは子供のより良い音楽教育を目指した曲集の数々など、膨大な作品群と種類の多さに驚くばかりで、研鑽、邁進などの言葉をはるかに超えて生涯を貫き通した不断の姿勢に打たれます。当財団の活動も含めて先生の聲に接した者の一人として、改めて先生の偉業と結実に深く敬意を覚えます。多くの再演が行なわれてその響きが届きま

「海外音楽研修生費用助成」の

2025年度申込受付を開始

当財団は、1991年6月の設立以来、「クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成」を目的として海外音楽研修や海外音楽コンクール参加のための費用の助成を行なってきました。過去34年間の助成対象者数は、合計223名です。

2025年度においても、「海外音楽研修生費用」の助成希望者を公募いたしますので、助成を希望される方は、主な音楽大学や音楽指導者宛に送付した「申込要領」または当財団のホームページをご覧ください。4月4日（金）までにお申し込みください。

に欧米への留学に必要な費用の助成を行ないます。

2. 助成対象

海外の教育機関等に留学し、技術を練磨するとともに、その実体験を通じてさらに研鑽を深めることを志し、海外留学の目標と計画が明確である方とします。

・ 音楽・器楽を専攻し、大学在籍者・卒業（予定）者および大学院在籍者・修了（予定）者、高等学校卒業（予定）者

・ 声楽は1992年9月1日以降、器楽は1997年9月1日以降に生まれ

助成の趣旨等

1. 助成の趣旨

わが国のクラシック音楽文化の向上のため、国際的音楽家をめざして研鑽中の若手音楽家に対し、海外、特

3. 助成対象人員

・ 4名程度

4. 助成金額

・ 年額200万円

・ 助成期間は原則2年

申込手続書類等

1. 申込書

・ 所定用紙による

2. 推薦書（二通）

・ 2名の方の推薦が必要
・ 推薦書には、次の項目を必ず記入のこと

① あて先（当財団名）

② 被推薦者（応募者）の氏名

③ 推薦理由

④ 推薦書作成日（3ヶ月以内）

⑤ 推薦者本人の署名

3. 映像資料

・ 本人の演奏を収録したDVDを提出のこと（ピアノおよび打楽器については楽曲の指定あり。詳細は申込要領参照）

・ 2024年7月以降に収録された演奏で、カメラアングルは固定し、以下に留意

声楽…演奏者の顔と上半身が明確に映る角度

ピアノ…演奏者の顔と手元が明確に映る角度

弦楽器…演奏者の顔と手元、弓を含む楽器全体が明確に映る角度

管楽器…演奏者の顔と手元、楽器全体が明確に映る角度

打楽器…（管楽器に同じ）その他…オルガンはペダル操作も映る角度

映像と音声は同時に収録し、特に音質には留意すること

・ 映像資料（DVD）は、複数の曲目の場合は、各曲・楽章を別々に分けて収録することは構わないが、収録は同じ会場（場所）かつ同じ日に収録し、DVD1枚にまとめること

・ 演奏曲目の構造に応じて、その内容を申込書Ⅲ「2. 曲目と楽曲構造の内容」に記載すること

日 程

1. 申込期限

・ 4月4日（金）必着

・ 書類および資料は簡易書便等（配達確認が可能な方法）による送付を原則とする

2. 選考日程

・ 第一次選考（書類・録音資料審査）は4月21日（月）

・ 第二次選考（第一次選考通過者に対する実技および面接）は5月19日（月）

【開催地 東京・新宿】

3. 結果発表

・ 6月上旬予定

選考方法

当財団の選考委員会で厳正に審査の上、助成候補者を選出。その後、理事会の承認を経て助成対象者が決定されます。

詳細については、「申込要領」または当財団のホームページをご覧ください。

（www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp）

海外音楽研修生レポート

「うどん事件」



「2024年6月にドイツのWilhelma Theaterにて演じたCosi fan tutte(S Don Alfonso)」

(23年度助成・声楽) 後藤 駿也

(留学先・シュトゥットガルト音楽演劇大学)

ドイツでの学生生活も早いもので一年が過ぎました。上手いかなことや大変なこともありましたが、それ以上に学びや楽しみも多く、気づけば昔よりなかなか図太く生きています。こちらの生活でいちばん恋しくなるものはやはり日本食で、寿司や鰻やらを思い浮かべながら、硬めに炊いたミルヒライス(ドイツのスーパーで売られている日

本米に似た味の米)を日々噛み締めています。

そんなドイツ生活の中で、ある晩、私は急にうどんが食べたいという衝動に襲われました。作り方を調べてみると、どうやら小麦粉と水と塩だけで簡単にできるらしく、YouTubeで見つけたうどん職人の動画を頼りに早速作ってみることにしました。突然始まった深夜のうどん作り。はかりなど無いので目分量で材料を混ぜ、食欲に任せて生地をこね始めました。コシのあるうどんを作るには生地をしつかりとこねなければならぬらしく、私は理想のうどんをきらきらと頭思い浮かべながら、手でこね、足でふみ、2時間ほど格闘してようやく生地をこね上げました。

YouTubeのうどん職人曰く、美味しいうどんを作るにはそこから更に生地を数時間寝かせなければならぬのですが、深夜に暴走した食欲がそんな悠長に生地の熟成を待てない。

私も早く、私は早速こね上がった生地を、麺棒などは

ないのでラップの芯を使って伸ばし、適当に切ってから鍋で手早く茹で上げました。醤油とみりんを粉末だしを煮立てて作ったつゆをかけてようやく出来上がったそれは、うどんと呼ぶにはあまりにも太く、まるで歪な「ほうとう」のようでした。恐る恐る食べてみると、よく子供の頃にこねて遊んだ油粘土を噛んでいるのかのような食感。一本一本が巨大過ぎるために最早どんぶりから上手く啜ることもできない。そのとき、私の頭の中で光り輝いていた理想のうどん像はさらさらと音を立てて崩れ去ったのでした。おれは今一体何を食べているんだ。そう自問しながら虚しく空腹を満たした一夜のうどん事件は、ドイツ生活での忘れられない思い出です。

「変化を楽しむ努力」

(23年度助成・ピアノ)

青島 周平

(留学先・パリ国立高等音楽院)

パリに留学して6年目の年になりました。出国前の羽田空港で抱いた、留学生活への期待や漠然と全ての新しいことへの不安が入り交じった感情を昨日の事の



「パリ国立高等音楽院の修士課程卒業試験後、フランクブラレイ先生、上田晴子先生との写真」

ように思い出すことができます。必死に駆け抜けあつたという間の6年間でしたが、充実した有意義な体験ができたと感じています。

ただ最初のスタートはあまり順調にいきませんでした。というのも、ベトナム経由でパリに到着した矢先、初めての異国での一人暮らしに必要な大切な物を沢山積んだスーツケースがトラブルで受け取ることができなかつたのです。それまで海外に行った経験もほとんどなかったため、荷物が紛失する事態にどのような対処をすればよいのか分からず、覚えてたのフランス語でどう職員に伝えればよいのか、など押し寄せてくる不安に冷静ではいられなくなつたことを覚えています。現地にいた知り合いの方の

多大なご尽力のおかげで結局到着してから10日ほどで無事に手元に届ってきたので事なきを得ましたが、渡航する際はすでに良く言われている通り荷物にエタグ等の追跡可能な装置を入れておくことをおすすめします…！

最初から思わぬ障壁にぶつかってしまったものの(初めての一人暮らしに四苦八苦しましたが)、それから学校登録や必要な手続きは比較的スムーズに行なうことができました。無事に望んでいた環境での音楽勉強がスタートしました。新たな先生であるフランクブラレイ、上田晴子先生とのレッスンは非常に刺激的で、お二人の楽譜から読み取れる情報量の多さとそれを実現するための技術に感銘を受けながら、ただ最初は自身で実行するにはとても難しく、まるで初めてピアノを勉強しているかのような感覚にまでなることもありましたが、またピアノのレッスン以外にも、アナリーズの授業や鍵盤和声などの授業からは楽譜から音楽を読み取るための新たな視点と方法に気が付かされ、その楽しさが後に伴奏科やエクリクションの科に入るモチベーションの一つになりました。

「夢のウイーン」



「2024年4月楽友協会の
コンサートにて」

(23年度助成・ヴァイオリン)

平野 友葵

(留学先・ウイーン市立
音楽芸術大学)

2023年秋から始まった留学生活もあっという間に一年が経ちました。

ウイーン市立音楽芸術大学で憧れのパヴェル・ヴェルニコフ先生の元で学べる事となり、レッスンでは音楽性の豊かさや素晴らしいに圧倒され、毎度の如く感銘を受けております。また、先生は温かいお人柄の持ち主で、音楽家としてだけでなく人としてもとても尊敬しております。そんな憧れの先生と、直接言葉を交わし、沢山のアドバイスをいただけた今、自身は大変恵まれた環境に身を置く事が出来ているのだと日々実感

です。この6年間の留学生活で学んだことの1つは、対処の難しい事象に直面した時、自分にコントロールできる事だけに集中する努力をするということ。入学当初は言語の問題で授業を細部まで理解できないことがあったり、レッスンを通して自分の演奏技術の不甲斐なさに自信を失うこともありました。そのような状態での異国での生活は、冒頭のような些細な障害、行政の手続きからコミュニケーションの仕方、日々の小さな事まで敏感に違いを感じてしまい、時に想像の範囲内で対処できないことに冷静でいられなくなることもありましたが、その時にその変化を楽しみとして変換し受け入れる大切さを実感しました。そうして過度に自信を失うことを避けながら自分の目標に集中して進んでいくことができたので、これから先どこで生活していても役立つマインドセットになると感じました。

最後に、まだもう少しばかりでの勉強期間は続きますが、この体験を活かしてさまざまな不安やトラブルも引き続き楽しみながら、日々少しでも成長できるように邁進していきたいと思

しております。

最近では室内楽にも挑戦しており、古典派から始まりロマン派、民族色の強い作品まで幅広く学んでおります。リハーサルは大学の部屋を借りて行なわれます。慣れない言語でのあわせはスムーズにいかない事もありますが、メンバーの生みだれ故郷だったり、彼らの生き様から生まれる自分とはまた違った音楽性を肌で感じ、共に音楽を創る事とても面白いのです。

最近、リハーサルのため練習室を申請していたとき、ちよっとした嬉しい出来事がありました。友人の一人が「見て、あの時計！」と声をかけてくれたので、その方向に目を向けると、受付の上にある掛け時計に日本バージョンが新たに加わっているのを見つけました。元々は現地時間の時計しか無かったのですが、いつの間にか時差が発生している国の分の時計が幾つか増えていたようです。練習室を待っている間に、家族が住む日本の時間がわかるのは嬉しいですし、お気に入りの場所の一つになりました。すぐに教えてくれた友人には本当に感謝しています。

2024年4月にはウイ

「ヨーロッパで活動するということ」



「ヨーロッパ各地での
バッハツアー2024ポスター」

(23年度助成・チェロ)

上野 通明

(留学先・エリザベート王妃
音楽院)

イン楽友教会にて演奏させていただける素晴らしい機会をいただくことができました。夢にまで見たウイーンでのコンサート出演を、このような場所で見現する事ができ大変幸せでした。豪華絢爛なホールは、煌びやかながらも歴史の重みを感じられ、舞台の木材と楽器がまるで一体となって呼応し合う特別な音響を持っていた事がとても印象的でした。私は、思い入れ深い作品の一つであるワックスマンのカルメン幻想曲を演奏させていただきました。音が鳴り終えた瞬間にDiasが聞こえてきた時、何よりお客さまとの一体感を感じられた事、私にとっては何ものにも代え難い大変幸せで貴重な経験となりました。私の高校時代はコロナ禍により、すべてが制限のある中での活動となり思うようにできない事も多々ありましたが、今こうして毎日新たな発見と挑戦に溢れた素晴らしい大学生活を送ることができております。留学という一つの夢を叶えてくださった貴財団に心より感謝申し上げますとともに、音楽も、人としても成長したいけるように一層努力してまいります。

僕がヨーロッパで音楽を学ぶ目的は、数々の名作を生んだ作曲家たちが実際に生きていた場所に身を置き、たくさんさんのインスピレーションを受けたり、作品の背景をより深く理解したりすること、また尊敬する音楽家から演奏技術や解釈の仕方、ソリストとしての姿勢を学ぶことでした。そんな夢のような留学生活があつという間に経ち、財団様からご支援を頂きながら学生生活の終盤にかけてヨーロッパに拠点を置く準備をさせていただきました。ジュネーヴ国際コンクール以来、幸運にも大規模な

音楽祭からお招きいただいたり、さまざまな貴重な演奏の機会を頂きましたが、まだまだ自分が思い描く理想の活動には届きません。

より多くの人々に自分の音楽を届けるためには何をすべきか考えた末、まずは自分にとって特別な存在であるバッハの作品を中心に、大きな挑戦として、ドイツ各地での演奏ツアーを企画しました。拠点となるデュッセルドルフのトーンハレ、ライプツィヒのゲヴァントハウス、ベルリンのフィルハーモニーなど、由緒あるホールでの公演は、まさに大きなチャレンジでした。

初回のこのツアーでは集客が思うようにいかず、人が少ないホールで演奏して、プロジェクトの意味を見失いそうになることもありましたが、地道な努力に価値があると信じ、2年後に再びチャレンジしました。今度はミュンヘン、ライプツィヒ、ベルリンに加え、パリやデュッセルドルフなどさらに規模を広げた8箇所での公演となりました。おかげさまで集客も前回よりさらに向上し、一部の公演ではほぼ満席を達成しました。デュッセルドルフのトーンハレでは、地元最大のシニ

マン音楽祭に出演する話にもつながり、聴衆の皆様の反応も温かく、一歩ずつではあるものの、苦勞が報われることを実感しています。

いつか理想に届く日を夢見ながら、本場フランスでのラ・フォル・ジュルネ音楽祭やシユタルケル記念コンサートで演奏させていただったり、今後はスイス・ロマンド管弦楽団との共演など素晴らしいチャンスもいただいております。どんな時も最高のクオリティで演奏を届け、常に進化し続けることを目標に、音楽の素晴らしさを世界中の皆様と共有できるように、ますます精進していきたいと思っています。

「初めての海外、1年間で5回の引越しを経て」

(23年度助成・オーボエ)

吉川 隼介

(留学先・エコールノルマル音楽院)

パリでの留学が始まり早くも1年が経ちました。初めての海外にかなり不安を覚えながら1人で乗った飛行機を今でも鮮明に覚えております。円安の状況が良くなる事は無かった1年間、円高を知らないからこそ物価の高さには啞然と



「パリのサンシユルピス教会
ツリー前にて」

しております。経済的な不安が募る中私は住居の問題に大変苦勞した1年間となりました。

衛生的な問題（ホコリやネズミ等）のある家に3件連続で引っ越してしまい、一時的に避難をさせてくれた優しい日仏夫婦の家庭と今のアパートに越してくるまでに計5回の引越しを約10ヶ月の間で行った結果になつてしまいました。衛生的な問題のある家3件とも長くフランスに住んでいる日本人の大家さんから借りた部屋だったので、いくら日本語でやり取りができるからといって住居選びは慎重に行なった方が良く、いと大変勉強になりました。家の工事を数週間手伝わせず、楽器を強制的に吹かせて貰えない環境に追い込んでくる大家さんや保証金を返さ

ない大家さんが居たのでこれから留学を考えている人は大家さんの人柄も判断基準にされた方が良いかなと思います。

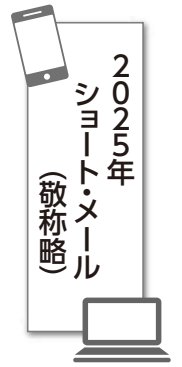
もちろん大変なことだけではなく良い事もたくさんありました。私はトーマス・インデアミューレ先生の元でオーボエをご教授していただいております。素晴らしい先生の元で素晴らしいレッスンを受けられているこの環境が1番の幸せです。他の音楽の授業もフランス語で行われ大変だなと思うことはありますが現地の同年代と受ける授業の数々はどれも新鮮で競争心が芽生えたり良い刺激をたくさん受けました。海外では日本では考えることができない思いがけない出来事が数多く起きると思います。慣れない国では特に体調も崩しやすい私は何度も病院に世話になりました。

パリでの留学生生活も2年目に入り、1年目に学んだ苦労の数々を土台とし、よりいっそう音楽に、オーボエと向き合う留学生活を送りたいと思います。この様な環境を与えてくださった貴財団へ常に感謝し誠心誠意音楽と向き合い精進してまいります。

日本音楽コンクール 明治安田賞受賞者（作曲部門）

日本音楽コンクールの作曲部門は、作曲家の方々がデビューの足掛かりとしてきた重要な部門ですが、当財団は若手作曲家の励みとなるよう同部門の最優秀者に対し「明治安田賞」（賞金50万円）を寄託し、次の方々が受賞されています。

91年度（第60回）	伊佐治 直
92年度（第61回）	藤満 健
93年度（第62回）	原田 敬子
94年度（第63回）	伊佐治 直
95年度（第64回）	望月 京
96年度（第65回）	若林 千春
97年度（第66回）	なかにし あかね
98年度（第67回）	大場 陽子
99年度（第68回）	小浦 則子
00年度（第69回）	三浦 貴史
01年度（第70回）	名倉 明子
02年度（第71回）	朴 銀荷
03年度（第72回）	中村 寛
04年度（第73回）	宮澤 一人
05年度（第74回）	横島 昌浩
06年度（第75回）	篠田 昌伸
07年度（第76回）	山根 明季
08年度（第77回）	稲森 安太
09年度（第78回）	江原 小修
10年度（第79回）	中辻 百合
11年度（第80回）	魚住 悠太
12年度（第81回）	平川 加恵
13年度（第82回）	網守 奨平
14年度（第83回）	杉本 友樹
15年度（第84回）	向井 響
16年度（第85回）	東 俊介
17年度（第86回）	白岩 哲朗
18年度（第87回）	久保 優拓
19年度（第88回）	井上 結子
20年度（第89回）	松本 真緒
21年度（第90回）	福立 祐矢
22年度（第91回）	石川 光詩
23年度（第92回）	丹羽 健月
24年度（第93回）	前川 菜月
	松本 淳一



助成対象者のみなさまから寄せられたお便りを助成年度、専攻部門の順に掲載しました。

1991年度助成

江澤 聖子 (ピアノ)

今世紀も4分の1の歳月が過ぎようとしています。コロナ禍を経て音楽会も活気を取り戻し、また若い人達も積極的に海外に出掛けるようになりました。現地の講習会に参加した学生は2週間のさまざまな体験で表情も一変し、自身が音楽を学ぶ意義を強く自覚して帰ってきます。輝きに溢れる笑顔を励みに、大学でのレッスンに日々取り組んでまいります。附属図書館長の任期もあと2年、精一杯務めていきたいと思っています。

鈴木 優子 (パーカッション)

ドイツに留学していた際、クラスの演奏旅行の前には必ず教授のご自宅に招待され

で、「充分に練習してきたので、当日力んでしまわないように、思いきりリラックスしよう」とと食事をしながら楽しく過ごしたことをよく思い出します。留学するまでは、演奏直前まで気合いを入れ緊張感を高めるものだと思っていたので、真逆を教わり、今生徒さんに教えるときや自身の演奏の際に役立っています。

1992年度助成

田中 晶子 (ヴァイオリン)

中国の蘇州とイタリヤはブラシアで音楽祭とマスタークラス。新しいCD『Oneness』(ブラームス『雨の歌』他を収録)のリリリース。2025年は東京オペラシティで年3回のプロジェクトがスタートします。AIは便利ですが、本当に生身の人が?不安もある中、演奏とは実に嘘がつけない尊い行為と感じています。

梅津 千恵子 (パーカッション)

新年おめでとうございませう。そして貴財団機関誌第30号発刊おめでとうございませう。おかげさまで我が千支年とともに変化のある音楽人

生、国内オーケストラ12年、イタリアでのオケ室内楽活動12年、そして帰国後「パーカッションメッセージ公演」継続12年を迎えます。常に新しい発想を探る打楽器自主企画演奏では、ホール依頼公演、学校公演等、国内外でのソロ室内楽オーケストラ経験豊富に取り込み、毎回全力投球で打楽器音楽ファン拡大中です。

1993年度助成

小林 幸子 (ヴァイオリン)

齋藤 千尋 (チェロ)

(注:両氏はロータス・カルテットとして演奏活動中・シュツットガルト在)

近々リサイストライヒという若手女性作曲家の弦楽四重奏曲の演奏会があります。色々な作曲家の弦楽四重奏曲を演奏してきましたが、今回は私達にとって初めての女性作曲家の作品です。作曲家に限らず指揮者としても女性が増えてきていて良い素晴らしい音楽の世界が広がります。あつた時代には生きています。

九頭見 香里奈 (ヴァイオリン)

2024年は、所属先のシュツットガルトガルトフィルで、ストラヴィンスキーやツェムリンスキーなどのコンサートマスターの大きなソロを弾く機会に多々恵まれ、また、室内楽やリサイタルも多い一年で、充実していました。その反面、学生でなくなつてから20年以上経つ今頃になつて、音楽以外の勉強をしたいという気持ちが強くなり、五か国語を話す15歳の息子に手伝ってもらいながら外国語の勉強をしたり、自分なりに歴史や政治について学んでいます。紛争、自然災害、難民問題など、かなり身近に感じる辛い問題が多い中でも、さまざまな国の出身の同僚達と心をあわせて演奏ができることに加え、自由な時間に自分のペースで学べる環境にいられることに、非常に感謝しています。2025年もみなさまと一緒に、良い一年となりますように。



1994年度助成

樋口 あゆ子 (ピアノ)

私は、2025年から2026年までのシーズン、日本楽壇デビュー30周年記念の年であることから、さまざまな音楽活動を展開予定致しており、国内では、2026年の春に浜離宮朝日ホールにて正式な30周年記念ピアノ・リサイタルを開催いたします。

アジアでは、2013年より開催いたしております第4回日本ベトナムピアノフェスティバルのベトナム公演を、選抜されたベトナムと日本の若手ピアノニスト達と共に開催いたします。また、近年の約10年間は、日本国内のコンサート、日越若手ピアノニストの育成目的の交流コンサート、1月に放送700回を迎える毎週土曜日18時45分から放送のFM yokohamaピアノワイナリー響きのクラシックの音楽番組司会と3本柱を中心に、音楽活動を行なつてまいりました。昨年4月より、昭和音楽大学・短期大学・大学院ピアノ専攻非常勤講師として、中国人留学生達のピアノ専科指導もさせていただいており、7月には正会員として

所属している（一社）全日本ピアノ指導者協会の評議員として、8月に輩出されるピアノコンペティション・グランプリ受賞者への褒章コンサート作成支援を行なっております。

私の音楽活動は<http://ayuko-higuchi.music.cocan.jp/>でチェックしてください。

マリア・アヤ・アシユリー

（ヴァイオリン・ボン在）

いまだに戦争は終わらず、苦しむ人々の絶えない世の中ですが、だからこそ、演奏できることが愛おしく、大事だと思っています。ずっと在籍しているケルンの西ドイツ放送響として、ヴェネツィアの現代音楽祭に参加したり、今年の2月にはスペインツアーも予定されています。

最近、これまでヨーロッパで培ってきたものを、室内楽でお客さまに届けられたらいいなという思いが募っていて、チェコ人の仲間達と模索中です。日本でも演奏できると嬉しいですね。

横山 奈加子

（ヴァイオリン）

2024年にスメタナのピアノ三重奏曲を演奏する機会

がありました。スメタナの曲はあまり縁がなかったのですが、珍しい構成と重々しい内容にも明るさの見える起伏に飛んだ曲想が大変新鮮で面白かったです。引き続き、今後、後進の指導と自身の演奏会と両立していければと思っています。

神田 寛明

（フルート）

昨年はコロナ禍以降初となるアジア・フルート・コンGRESを神戸で行ない、韓国、中国、台湾、シンガポールの仲間達と神戸で再会、旧交を温めることができました。N響も4年ぶりの海外ツアーとして台湾で4回のコンサートを行ない、ちょうど4年前に更新したパスポートをやっと使うことができました。

N響を指揮したブロムシュテット（97歳）デュトワ（88歳）ヤノフスキ（85歳）各先生方の姿には感服するばかりでなく、長年共演しているからこそ感じた「さらなる進歩」に脱帽する思いです。時にシツコイことも変わらず、いやこれ進歩した？？感があり嬉しくため息をつきました。

1995年度助成

大森 潤子

（ヴァイオリン）

財団の助成によりパリに留学させていただいてから、はや30年を迎えようとしています。私の活動は相変わらずで、静響ゲスト・コンサートマスター、全国の学校等でのアウトリーチ、後進の指導を軸としています。札幌の大学チャペルで2008年から行なっているバツハ無伴奏による演奏会も、ささやかながら15回目を無事に終演し、16回目の開催も決まりました。恩師R.パスキエ先生には毎年お目に掛かっていますが、80歳目前の先生は今もなお精力的な演奏活動をされており、このような超人の元で若いうちに学ばせていただけたことが現在の自分の礎になって、と、つくづくありがたく思っています。世界情勢により渡航が簡単ではなくなった近年においても変わらず、留学にご援助くださっている財団のみなさまには、感謝の念に堪えません。



志茂 美都世

（ヴァイオリン）

海外に行くと、私はいつも日本という国が独特の文化を持っていることに気が付きます。文化の違いでは、ヨーロッパではクラシック音楽や伝統的な芸術ごとが日常の延長線ですが、日本は全く違います。初めて留学した時、この点が大きく異なることにショックを受けましたし、逆に日本に帰国した時もそうでした。音楽留学の大きな魅力として、留学先がヨーロッパのみなさんにも、是非その土地の文化から西洋音楽の伝統を体感して欲しいです。今年も色々挑戦して行きたいと思っています。

P. S. 私の演奏の一部をご紹介します。

<https://www.youtube.com/@mitroseschannelmitroseshino>
6123

石橋 幸子

（ヴァイオリン・チューリッヒ在）

昨年はストラディヴァリウス（キング・ジョージ）を貴志康一氏の母校である甲南大学で初めて披露する機会をいただきました。この楽器は貴志康一氏がヨーロッパ留学時代に演奏していた楽器で、約

90年ぶりに神戸で演奏され、関係者の方々にも大変喜んでいただきました。今年は貴志康一CD第2弾のリリースを予定しています。ぜひみなさまにもこの作品集を楽しんでいただければ幸いです。

神代 修

（トランペット）

台湾の多くの大学と国際交流をしています。特に深い関係にあるのが台北の実践大学です。その大学の宋正宏先生は私と同じ時期にウィーンに留学されており、初めてご挨拶した際に「私はあなたをよく知っています！」と言われて驚きました。

貴財団の支援で留学させていただいたご縁が、発展的に継続している事に感謝しています。

1996年度助成

安藤 裕子

（ヴィオラ）

2024年も通常の大学での業務に加え、所属する紀尾井ホール室内管弦楽団や客演したオーケストラにおいて、素晴らしい指揮者、ソリスト、共演の仲間との沢山の出会いがありました。先日は「二十

数年前、まだ学生でヴィオラを本格的に学び始めた頃、安藤さんが弾くカルテットをスコアを持って聴きに行ったんです。あの時ヴィオラの音を、初めて認識したんです。」と、

今では立派にオーケストラ団員として活躍する方から話しかけられて、嬉しくもあり、月日の経過に慄くやら。

天候、体調不良などの要因で公演が変更、延期になってしまった事もありました。

そのような事があると改めて、自分が出演する、聴きに行く、一回一回の演奏会がますます、愛おしく感じられるようになりました。

3月には、藝大のオーケストラメンバーで続けてきた「Quartet Lauras ベートーヴェン弦楽四重奏曲 全曲演奏会」が完結する予定です。お互いの成長を確認しあいながら、より魅力的な演奏をめざしたいです。

最近、般若心経練習帳を筆ペンでなぞる事を日課にしています。自分を保ちながらも心をひらいて、新しい年も周囲の方々から良い刺激をいただけるよう、励んでいきたいなと思っています。

1997年度助成

泉 良平
(声楽)

昨年は自分の音楽活動においても記念になる年でした。日本オペラ協会オペラ『ニッグル』倉本聡先生の小説によるオペラ作品。北の大地に暮らす人々の暮らしに描かれた自然との共生、希望、別れ、世代間の争いが描かれた素晴らしい作品に出演させていただきました。本年はオペラ『夕鶴』『ヤマトタケル』他、年末までさまざまな作品に出演の予定です。

山崎 貴子
(ヴァイオリン)

自然災害や戦争・紛争で苦しむ人が、何と多い2024年だったことでしよう。個人的には、人生で最も大きな影響を与えてくださった恩師の一人、ジョージ・パウク先生が急逝されると言う本当に残念な出来事がありました。パウク先生の音には、聴く者の心に直接響く、例えようのない温かみと力強さがありました。先生の人生、お人柄を知れば知る程、この音は、単に楽器を弾くことに長けている、音楽を掴む力がスゴイ、

と言った所から来る様なものではないのだらうと思うに至りました。レッスンで先生の音とその音楽表現に思わず鳥肌が立ち涙が滲む経験を何度もしたことを思い出します。

先生に出会えたこと、そして留学が叶ったことに改めて感謝し、これからも自分の中で活かし続けて行きたいと思っています。留学されている方、これからする方、貴重な出会いと学びに満ちた2025年となります様に。

大萩 康司
(ギター)

ようやくコロナも落ち着いて来て、コンサートも元に戻って来ました。留学も問題なく行ける様になり、私の教えていた生徒が何人か旅立って行きました。私の近況報告としましては、2024年は2016年から一緒に過ごしていただいているチェロの宮田大さんとのDUOツアーやCD制作、テノールのマーク・パドモアさんとのDUOリサیتال、関西フィル&オーギユスタン・デュメイ指揮での協奏曲など、ソロにとどまらず沢山の素晴らしい共演者に恵まれた一年でした。来年はCDデビューしてから25年の

年。これからも共演者にも主催者にもお客さまに対しても真摯に向き合い、より良い音楽を届けられるよう日々精進して行きます！

1998年度助成

豊嶋 起久子
(声楽)

小澤征爾先生に寄せて

ウイーンで初めてお目にかかったのは、先生の長年の親友かつてハリウッド映画

「SAYONARA」に舞妓で出演されたてる子さん、つまり京都文化のご縁だった。てるさんは私の京都の先祖も親戚もご存知で隣町内同じ小中学校だ。祇をんの女将さんでもあり、今年は50周年と米寿の祝賀会に来京させていただいた。出会った時私は古都プラハで蝶々夫人を客演していたため、着物の着方や所作などここぞとばかりてるさんに伺い芸を盗もうとした。その頃ウイーンでは小澤先生の活躍が華々しく新しいページを描かれていた、先生の戦う姿を目の当たりにしつつ私は自分と向きあい、芸術と戦った。いつだったか全開したままのリユクサックを背負った先生が「いや、道にね、なんか

良いもんが落ちてくるかも知れないからさ、直ぐ拾って入れるんだよ！」いたづらな表情で劇場から出る所に出くわした。懐かしい、私も良いもん拾って行こう！感謝。

島田 真千子
(ヴァイオリン)

明けましておめでとうございます。みなさまにとつて素晴らしい年になりますよう祈念いたします。

ドイツ留学生生活を終え演奏活動を始めてから今年で20年目。学生の頃に体験した事や留学時代に学んだ事は、今も礎になっております。ヴァイオリニストとして、教育者として、また人間として、鍛錬や研究をし続けられるさまざまな場所が増えており、これまでお世話になりました多くの方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。愛知県立芸大や名古屋音大での指導、ソロコンサートマスターを務めて10年目となるセントラル愛知響の活動、メンバーである水戸室内管弦楽団やいずみシンフォニエッタ大阪の公演、ソロリサイタルや、年始に行なう門下の合宿を兼ねたマスタークラスなど、今年も全力で取り組んでまいります。

助成やご支援をいただいでここまで来られた事への感謝を、次世代や社会に還元して行けるよう、これからも精進したいと思っております。

1999年度助成

大谷 玲子

(ヴァイオリン)

演奏活動と大学の仕事に追われながら、元気に精進の日々を送っております。2024年夏はイタリアでの夏期講習会に招聘され教えに行き、受講生達は現地のオーケストラと協演等しました。優れた音楽家をめざし、将来に夢を持って成長する子供達が増える事を願い、地元大阪からその一助ができればと思っております。

2000年度助成

松原 広美

(声楽)

昨年は、プロ・デビュー20周年という節目の年で、地元・群馬と東京で、記念リサイタルを開催しました。おかげさまで両会場とも、超満席。最後はスタンディングオベーションも、いただきました。まずは、25周年、30周年、願わ

くば50周年まで！目指して、引き続き精進していきたいと思えます。

今年2月は、所属先である藤原歌劇団の創立90周年という節目の公演にも、出演させていただきます。演目は「ファルスタツフ」、演じる役はクイックリー。数年前に、音楽雑誌「音楽の友」のインタビューで、次に演じたいヴェルディのオペラの役は？と問われ、クイックリーと答えた夢が叶います。東京が1日、愛知が8日です。ご都合つきましたら、ぜひお出かけください。

上野 真理

(ヴァイオリン)

昨年は、留学仲間とのコンサートが続き、学生時代の仲間の公演にも参加することができました。アトインレジデンス事業にお声がけいただいたり、カルツツかわさきレクチャープログラムで演奏させていただいたり、これまでの絆を強く感じた一年でもありました。年明けは文化芸術事業の一環でハープと共演させていただきます。貴財団のお力添えで留学の機会をいただいたことに最も感謝しております。

シユレイファア(遠藤)弓子

(ハープ・ダラス在)

今シーズンも例年同様、忙しく過ごしております。一ヶ月ほど前、高校生のコンクールがあつたのですが、今年は生徒達の成績が芳しくなく、そのことを考えておりました。そして思い当たったのが、その学年の生徒達はみな、ハープを始めた年がコロナの年と重なっており、オンラインで授業を始めた生徒達で、プライベートでも生徒を対面で教える事ができなかった空白の一年があり、その生徒達が高校生になった事に気が付きました。この様な形でコロナの存在を思い知らされる事になるとは、思ってもおりませんでした。その当時、私の息子はまだ小学一年生で、オンラインの授業でもさほどの影響はなかった様に思います。が、その頃、オンライン授業を余儀なくされた学生達の世代に、今後どの様な影響が出るのか・・・自由に出たりたりスポーツに勤しんだり、その様な日常が戻ってきた事に感謝の念を覚えます。みなさまにおかれましても、本年のびのびと活動できる充実した年となります様に祈り申しあげます。

2001年度助成

三上 亮

(ヴァイオリン)

仕事の為にも健康には気を遣ってはいるものの、実は甘党の私。太らない体質をいいことに、仕事の合間には、しよつちゅう体力回復のためと言いつつ甘味を堪能しておりました。しかし！最近通い始めた鍼灸院で「甘いもの食べすぎ！」と注意を受け猛省。控えたところ調子が良くなり集中力もアップしました！今年はCDをリリース予定なので、(甘いものは極力我慢して)ますます頑張ります。

大石 将紀

(サクソフォン)

24年は作曲家、細川俊夫先生のサクソフォン作品集のアルバムを発表することができ、25年1月30日にはゲーテ・インスティテュート東京においてアルバムが発売と細川先生の生誕70年を祝うコンサートを行います。フランス留学中に出会った細川先生の音楽をこの様な形で演奏し続けることができとても幸せに思っています。

2002年度助成

サヤ・ハシノ

(ピアノ・ジュネーブ在)

2024年は、変容に満ちた特別な一年となりました。20年以上ぶりに日本でピアノソロリサイタルを開催できたこと、日本各地で新たなご縁に恵まれたこと、そしてピアノソロアルバム『魂の踊り』をリリースし、Stage誌7月号で優秀録音盤に選ばれたことは、いずれも忘れられない出来事です。また、ハリウッドの映画作曲家クリストファー・ヤングによる『吸血鬼ノスフェラートウ 恐怖の交響曲』の世界初演において、チユリッヒ・トーンハレ管弦楽団とともにオルガンの重要なパートを担えたこと、その演奏が収録されたCDが発売されたことも大きな喜びでした。そして私的なことですが、45年離れ離れになっていた父と再会することができ、私の中で長い間欠けていたものが埋まり、魂が喜びに震える瞬間を迎えました。この出来事は、私の人生における深い癒しと再生の象徴となりました。2025年は、さらに変容と創造を深める一年となります。7月には、スイス・

ロマンド管弦楽団のアジアツアーで日本でも演奏の機会をいただきます。ストラヴィンスキの『ペトルーシユカ』がプログラムに含まれており、ピアノソロも含む重要なパートを任されており、これまでの活動に加え、今後は自身で創り出す音楽にさらに注力し、自分自身の真の表現を追求していく挑戦の年でもあります。新たなステージに向けて、一瞬一瞬を大切にしながら、今を生きる喜びとともに歩んでいきたいと思えます。

2003年度助成

市原 愛

(声楽)

歌は、「言葉」を伝える音楽だと思っています。

高校生で声楽を学び始めてすぐに挑戦した国際コンクールの舞台裏で、英語、イタリア語、ドイツ語など、いくつもの言語を流暢に操り、参加者同士でコミュニケーションを取ったり、インタビュに答えたりする海外の学生を目の当たりにし、すっかり萎縮してしまったことを覚えています。その時から、歌をやるからには外国語の「歌詞」

を自分のものにしなくては！という意識を持ち、大学卒業後に留学を決断しました。「言葉」を、耳や目からだけでなく、季節を通して肌で感じる事は、演奏レベルを格段に上げます。私の歌手人生の礎となる、大切な勉強期間を支えてくださった当財団に、心から感謝しております。

山辺 絵里

(ピアノ)

シヨパン国際コンクールの審査員ケヴィン・ケナー氏と2台ピアノのリサイタルを3月17日(月)横浜みなとみらい小ホールで開催します。英国王立音楽大学に留学しケナー氏の「核心に触れる音楽」を学びました。長年の探求の成果として日本で共に奏でる機会を得られ感謝いたします。今後みなさま方と共に努力を重ねてまいります。

2005年度助成

佐野 隆哉

(ピアノ)

2023年に山田耕筈のピアノ全集「ピアノ作品にみる『山田耕筈ルネサンス』」をリリースし、お陰様で大変な反響をいただきました。隔年で

行ってきた自身のリサイタルも昨年より毎年に頻度を上げて、室内楽だけでなくソロにも力を入れていこうと思っております。2025年には、ドビュッシー作品のレコーディングも始まる予定です。

横坂 源

(チェロ)

昨年、日本音楽財団よりストラディヴァリウスを貸与させていただき、シュトラウス、ラフマニノフのソナタを収録した3枚目のCDをリリースさせていただきました。今年は、所属しているリードヴィツヒチエンバープレイヤーズの海外公演、日本では東京・春・音楽祭を始め、信頼する奏者の方々と室内楽公演があり、勉強させていただきます。ただけることに感謝しています。

遠藤 真理

(チェロ)

昨年は所属する読売日本交響楽団のヨーロッパツアーがあり、ドイツとイギリス計8公演が行なわれました。ベルリンのフィルハーモニーと、ハンブルクのエルブフィルハーモニーで演奏出来た事は特に印象深い経験になりました。

た。日本のどのホールにも当てはまらない独特な個性があり、舞台上で出した音がとてもクリアでありながらドライな感じは全くなく、オーケストラの個性を際立たせるホールでした。ホールがオーケストラを育ててくれるような、そんな感動を味わう事ができました。また、どの地域もお客さまからの温かな拍手がとても励みになりました。ヨーロッパ留学から時を経たことで、懐かしさも強く感じられて、特別な時間を過ごす事ができました。改めて留学する機会をいただけた事に感謝いたします。

2006年度助成

江水 妙子

(声楽)

最近イタリア留学中にお世話になった先生にオンラインで教えていただく事がありますが、イタリアの石畳から響いてくる街を行き交う人々の声や馬の足音は現地では聞けません。オペラの一場面の様だと衝撃を受けたのを今でも覚えています。いつの日かまたイタリアの音を聴きに行きたいと思えます。

佐藤 卓史

(ピアノ)

毎週末どこかの街を訪れて演奏する、コロナ以前の活動ペースが戻ってきて、この数年の自らの衰えをひしひと感じながらも地道に頑張っている生きています。ライフワークの「佐藤卓史シューベルトツィクルス」は全体の3分の2を越えました。あと数年、全力でシューベルトと向き合えるよう、身体資源の保持に心を配りたいと思います。

鈴村 真貴子

(ピアノ)

昨年は、私の研究テーマであるプーランクに関する執筆や、後進の指導、コンクール等の審査等、充実した一年を過ごすことができました。今年は、助成をいただき留学の経験ができた、パリの母校であるエコール・ノルマル音楽院のピアノ科アシスタントや、名古屋の音楽大学での仕事も新しく増える予定で、研究や演奏活動に加え、こうした縁を大切に過ごしたいと思っています。



2007年度助成

中村 恵理

(声楽・ミュンヘン在)

自分の志す音楽を追求する一方で、歳を重ねるにつれ、どのように次の世代にオペラや声楽作品の普遍的な素晴らしさを繋いでいく事ができるか考えるようになって参りました。とはいえ、国内外での演奏活動は以前と変わらず充実しており、1月、2月はカナダで『蝶々夫人』、4月はサントリーホールでの新しいオペラシリーズに出演いたしました。

自身が学び続ける姿を若い方達に見て聴いていただいで、お互いに刺激を与えられるように今は精進したいと思っています。

2008年度助成

クリステン・木美・ウイットマー

(声楽・オランダ在)

オランダからこんにちは！近年はひたすらヨーロッパ内での活動に勤しんでおりますが、2025年秋には実に久しぶりに（コロナ渦以来！）日本にて、鈴木優人氏とBach Collegium Japanとの公演が予定されています。日本に帰っ

て演奏できることは言うまでもなく、日本の美しい秋や友人達との再会も、今から心から楽しみにしています。

塚越 慎子

(マリンバ)

一昨年、「カンタービレ」歌うように」をテーマにリリースした、私のデビュー15周年記念アルバム「Cantabile」がレコード芸術誌において特選盤に選出され、昨年においては、そのアルバムがレコード・アカデミー賞に選出されました。打楽器の「リズムを刻む」というイメージを、「音楽的に歌いあげる」こともできる楽器、ということもみなさまに伝えたく活動しております、それをご評価いただけたことに、心から光栄に思っております。また、ヨーロッパで最も信頼と評価の高い打楽器奏者であるイサオ・ナカムラ氏が「マリンバがこれほど音楽的に歌える楽器だったとは！」とご評価くださり、昨年からのドイツを中心にヨーロッパで招待演奏の機会をいただいております。今年は和太鼓との共演も予定しております。今後も常に新しいことに挑戦しながら演奏活動に邁進してまいります。

2009年度助成

盛田 麻央

(声楽)

フランス・パリから帰国して早13年が経とうとしています。現在は国内にて、オペラやフランス歌曲のコンサートなどに積極的に取り組みながら、国立音楽大学の非常勤講師として働かせていただいております。2025年11月には日生オペラ マスネ『サン・ドリヨン』の題名役として出演予定です。現地で出逢った音、表現、言葉、空気、人、すべてが今の力になっていると感じています。

重島 清香

(声楽・ワイマール在)

ある夏の日のこと、壊れたサンダルをもって、靴屋を訪れた私は、突然靴屋のおじいさんから「こんにちは！アッ シェンプッテル！直してほいのはガラスの靴ではないのですか？」ときかれ、一瞬何の何を言っているのか全く理解できない私に、おじいさんは笑いながら「この前のロッシーニのシンデレラの公演オペラとても素晴らしかったです。また見に行きたい」と言ってくれました。街の靴屋さ

んまでも劇場に足を運んでくれる、そんなほっこりな街ワイマールの生活も13年目を迎えます。たくさんの方々に至る場面で愛をいただき、支えてもらいながら劇場生活を送れることに感謝したいと思つた夏の日でありました。

三浦 文彰

(ヴァイオリン)

今年にはサントリーホールにてベートーヴェンの全曲ソナタ演奏会を進めており、2025年の2月に最終回となる第3回を予定しております。巨匠、清水和音さんと録音した全集CDも無事リリースいたしました。海外での活動ではイスラエルフィルとの初共演が印象に残っています。師匠、徳永二男先生から宮崎国際音楽祭の音楽監督の重役を受け継ぎました。ARXclassicsも7年目を迎えました。音楽の魅力をこれからもさらに広めてまいりたいと思います。

金子 平

(クラリネット)

去年の11月に読響のヨーロッパツアーに参加しました。音楽の本場で多くの現地のお客様から拍手をもらったことは自信になりました。本拠

地の日本だけでなく、海外でも演奏のチャンスがくれるオーケストラで活躍できることを幸せに思います。今後もさまざまなことを吸収して音楽に生かしていきたいと思ひます。

2010年度助成

多田 真理

(ピアノ)

留学先から帰国して、はや10年の月日が過ぎ、現在は国立音楽大学附属中学校1年生の担任をしております。昨年度は高校の担任だったため最初は戸惑うことも多かったのですが、周りの先生方に支えていただきながら仕事をしております。レッスンでは生徒が一生懸命音楽に取り組み成長していく姿を見ると、自分自身も精進していかなければと日々身の引き締まる思いです。教員の仕事と自身の演奏との両輪をめざしたいところです。

酒井 有彩

(ピアノ)

昨年はラヴェル生誕150周年に先駆け、オペラシテイにて彼の二つのピアノ協奏曲を東京フィルさんとご一緒さ

せていただきました。また、Vn周防亮介さんと新しいアルバム【歌う旅路】をリリースいたしました。今年は5/4に紀尾井ホールでのリサイタルが決まっています。本年も一つ一つの舞台を大切に、いらしてくださるお客さまにお楽しみいただけるよう、精進してまいります。

2011年度助成

小林 大祐

(声楽)

昨年富山テレビにて僕の活動や普段の生活を撮ったドキュメントが放送され、テレビの影響力は改めてすごいと思いました。パルトンの宮本益光さん作詞の歌曲で「もしも歌がなかったらあなたと出会うことはなかっただろう」という歌詞があり、これまでの沢山の人達との出会いは特別なもので、これからも一曲一曲心を込めて歌っていかうと思いました。

門間 信樹

(声楽)

昨年から日本を離れて再度異国に越してまいりました。大きな街の中心部には必ずオペラ劇場がある欧州ですら市

民、とりわけ若い世代の音楽離れが深刻に。なんとか日本人の若い世代に音楽を知ってもらえないか、私個人でもできることはないかと最近SNSを使った音楽振興活動に力を入れています。

永井 基慎

(ピアノ・パリ在)

昨年末、明治安田ヴィレツジ丸の内クラシックコンサートにヴァイオリニストの坪井夏美さんと出演いたしました。このような機会をいただき感謝いたします。その他昨年は、ローマ賞受賞女性作曲家に焦点を当てたCD「Little」をリリースしたほか、パリ音楽院ホルン科教授で元トウールズ・キャピトル管首席奏者のジャック・デルブランク氏とデュオでCD録音をさせていただく機会に恵まれました。デルブランク氏との共演は大変刺激的で、また豊かな食文化と自然を有するブルゴーニュの田舎町に滞在しての録音は心地のよいものでした。さまざまな出会いに感謝し、今後もより一層の研鑽を積んでまいります。



2012年度助成

増田 桃香

(ピアノ)

最近の演奏活動では、演奏機会の少ない作品を紹介することにも努めています。誰にでも愛される名曲には、そう呼ばれるだけの理由があるわけですが、プロオーケストラの定期演奏会のラインナップを見ても、マイナーな作品とザ・名曲と呼ばれる作品がセツトになっていることも多く、集客面とのバランスが重要であることは明白です。需要を見極めつつも、隠れた名曲を掘り起こし紹介したいという探究心を常に携えながら、自分ならではの演奏活動をおこなっていきたいと考えています。

上村 文乃

(チェロ)

留学中の生活を思い出しては、その気持ちを忘れずにいられるよう思い返す日々です。2025年1月25日東京銀座王子ホールにて、「A of Cello」と題しソロリサイタルシリーズを始めます。今回はコダーイ、細川俊夫先生、バッハ、ライヒのソロ作品、ラフマニノフのソナタに取り組

みます。公演の機会をいただくだけでなく、自分から新たな作品と向き合う時間を大切に、音楽を深めていきたいと思っています。

2013年度助成

佐藤 彦大

(ピアノ)

昨年はリサイタルや吹奏楽団との共演、各地で審査や講座があり、充実した一年でした。今年はオーケストラとブラームスの協奏曲第2番の共演、東京で自主リサイタル(11月)、ヴァイオリンとリサイタル共演の予定があり、新しいレパートリーが沢山増えるのを楽しみにしております。

藤井 淳子

(チェロ・ベルリン在)

今年(2025年)も昨年(2024年)に引き続き、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団に在籍しています。昨年は演奏旅行に参加することができ、ヨーロッパ各地の名ホールで演奏する機会にも恵まれ、非常に貴重な経験となりました。また最近では、オーケストラの仕事以外にベルリンとポツダムで移民

の子どもたちへの指導活動にも積極的に取り組んでいます。

2014年度助成

浦山 瑠衣

(ピアノ・シカゴ在)

ボストン、南カリフォルニアを経てシカゴに拠点を移してから早一年が経ち自宅でのピアノレッスンも開始しました。芸術に理解が深く未来を担う若い世代が多いこの地域に根ざし、音楽教育を通して個々の人生に貢献できることには価値があります。根気強く音楽と私を結び続けてくれた先生方のように、愛情を持って後進の指導にあたる喜びを感じています。

2015年度助成

篠原 悠那

(ヴァイオリン)

24年1月より日本センチュリー交響楽団の客員コンサートマスターに就任いたしました。譜読みに追われる毎日ですが、地道に頑張りたいと思います。また3月には明治安田ヴィレツジ福岡クラシックコンサートに阪田知樹さんと久しぶりにデュオで

ご一緒させていただき大変嬉しい機会、ありがとうございます！

2016年度助成

川口 成彦

(フォルテピアノ)

2024年はフィンランドのヨエンスー音楽祭でのモダンピアノでのリサイタル、ハングリーのブダペストでのフォルテピアノリサイタルで両国で初めて演奏させていただきました。それからマドリッド在住の友人の企画でマドリッドでの初となるリサイタルも実現しました。少しずつですが欧州での演奏の機会が増えること大変嬉しいです。

上野 明子

(ヴァイオリン・デュッセルドルフ在)

昨年はオケ活動の他にデュッセルドルフにゆかりのあるシューマン音楽祭への出演や、スペインでバッハのコンチエルトを演奏しました。秋には留学時代の恩師の退任コンサートで初めて先生と室内楽を演奏させていただきました。忘れ難い特別な思い出となりました。久しぶりの母校での演奏を機に留学時代を思い返

し、改めていただいたご支援に感謝いたします。

2017年度助成

松原 みなみ

(声楽)

おかげさまで大変貴重な経験をさせていただいております。サラダ音楽祭子どものためのオペラ『アトランティス・コード』で、柳原由香さんと共演する機会があり、お話ししているうちに同じ貴財団音楽研修生であったことが分かり、交流が深まりました。改めて貴財団のご支援と、給付期間を終えても広がるご縁に感謝申し上げます。

坪井 夏美

(ヴァイオリン・ベルリン在)

年末に明治安田ホールにて元海外音楽研修生として永井基慎さんとリサイタルの機会をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。2024年はソロのコンサートに加え、コンサートマスターをさせていただく機会が増えたり、個人レッスンやユースオーケストラにて指導をさせていただいたり、活動の広がりを感じる1年となりました。2025年も引き続きあ

らゆることに積極的に、かつ真摯に向き合っていきたいと思えます。

中島 諒

(サクソフォン・パリ在)

台湾での活動

2024年の10月、11月、1ヶ月ほど帰国し、そのうち台湾に2週間滞在しております。最近ありがたいことに、台湾でコンサートやマスタークラスを開催させていただく機会があり、今回も素晴らしい経験をさせていただきました。11月11日には、台北の歴史のある建造物である中山堂で、協奏曲を演奏しました。とても暖かい拍手とご好評をいただき、幸せなひと時でした。また、最近レコーディングをしましたのでCDを製作中です。フランスでは歌手活動やピアノストもしておりますので、こちらも頑張っていきたいと思っています。

2018年度助成

高橋 維

(声楽)

2024年はオペラやコンサート以外にも、新作バレエ『赤毛のアン』に歌唱出演した

ことが印象的でした。身体表現のプロであるバレエダンサーの演技を間近で拝見し、舞台人としての共通点も感じつつ一緒に舞台に出られたことは、大変有意義な経験となりました。2025年は、2月にBunkamura主催『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ役を控えています。また、オペラシテイ「B↓C」、兵庫県立芸術文化センター「夜の音楽会」それぞれのシリーズでリサイタルを行なう予定で、意欲的なプログラムを用意しています。今まで披露したことのないレパートリーが続き、挑戦の一年となりそうです。

小林 壱成

(ヴァイオリン)

東京交響楽団に入団し4年目となり、役職名もコンサートマスターから第1コンサートマスターとなりました。オーケストラの活動を主軸にソリストや室内楽、その他の演奏活動を通して音楽に関わっています。常に感じる事は、たくさんの人達に助けられて演奏活動ができていくという事。感謝を忘れず精進し続けます。

2019年度助成

山田 花織

(声楽・ミラノ在)

前回に引き続き、現在世界一周クルーズ船の三周目への渡航の準備を進めております。アフリカや南アメリカをはじめ世界各地を周りながら、クラシックという枠を超えさまざまなジャンルの現地の伝統音楽や人々と出会い、とても刺激的な環境で演奏活動ができることに感謝を忘れず、恵まれたご縁を大切に、更に深みのある音楽家を目指し精進してまいります。

秋元 孝介

(ピアノ・ミュンヘン在)

昨年もソロや協奏曲、室内楽など、多くの経験をさせていただきました。葵トリオではシンガポールの音楽祭に参加し、シンガポールの活気と室内楽発展への未来を感じることができました。今年はハワイでのツアーや、札幌・六花亭ふきのとうホールでのレジデントシリーズの開始など新たな活動も始まり、さらに邁進していきたいと思います。

小川 恭子

(ヴァイオリン)

2024年もコンチェルトから室内楽、オーケストラなどさまざまな演奏の場をいただき、初めての共演者の方とのご縁も増え、目まぐるしいながらも心踊る感覚を楽しんでおります。また、演奏以外の日常や人との関わりからインスピレーションを得る機会も多く、音楽を奏でる人としての在り方のようなものも考える日々です。2025年も引き続き、音楽を通してさまざまな面で成長していけたらと思います。

田原 綾子

(ヴァイオリン)

この一年、独りの時も以前より自由な気持ちで舞台上に立てるようになってきました。国内外の素晴らしい共演者との室内楽も発見の連続です。

今後も定期的によりサイタルの機会があるので、新しいレパートリーにも力を注いでまいります。ヴァイオリン界に貢献していけるよう、繋がりを大切にしながらか活動していきたいと思っています。



2020年度助成

櫻井 愛子

(声楽)

挑戦の年でした。社会人として働きながら7月に古楽から現代音楽まで膨大なレパートリーを要する第24回ライプツィヒ・J. S. バッハ国際コンクールにて第5位、10月に第93回日本音楽コンクールにて第2位・聴衆賞を受賞できたのは大きな自信となりました。また沢山の方の応援を実感する貴重な機会となりました。

横山 瑠佳

(ピアノ・ミュンヘン在)

ミュンヘンでの生活も4年が過ぎました。今年は20代最後という節目の年でもあるので、今まで以上にさまざまなことにチャレンジしたいと思っています。今夏にはソロの他に、昨年結成し始動したピアノデュオや、長年続けているヴァイオリンとのデュオなどの演奏会を控えていますので、しっかりと準備をして迎えたいと思っています。

黒田 哲平

(ピアノ・デトモルト在)

みなさまのご支援のおかげ

で、ドイツ生活も五年目を迎えました。徐々にさまざまなコンクールに入賞したりコンサートに出演することが増え、その環境に感謝する日々です。今年がどんな素晴らしい一年となるかとても楽しみです。音楽家としても人としても大きな飛躍の年となるよう精進してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

荒井 優利奈

(ヴァイオリン・ウイーン在)

昨年の夏はグラーツを拠点に活動するオクテットのメンバーの一員としてオーストリアとドイツで合計8回演奏旅行をしました。ドイツへは9人乗りの車で10時間以上かけて行くというサバイバルのような旅でしたが、大変貴重な経験にもなりましたし、同世代のメンバーからもさまざまな刺激を受ける事ができました。そして、2017年にウイーンに渡り約8年間過ごした地を離れ日本に完全帰国いたしました。慣れ親しんだ土地を離れる事に寂しい気持ちもありますが、ウイーンで積んだ研鑽を生かしながらこれから日本で活動を広げていけたらと思っております。

内尾 文香

(ヴァイオリン・ハンブルク在)

昨年2月にNDRエルプフィルハーモニー管弦楽団・2ndヴァイオリンのオーディションに合格し、5年間さまざまな学びを得たミュンヘンの地を離れドイツの北・ハンブルクへと拠点を移しました。しばらくは試用期間ではありますが、オーケストラ奏者としての自覚と責任を持ち、作曲家や指揮者、素晴らしい同僚との音楽的コミュニケーションをさらに実現できるように、邁進してまいります。

2021年度助成

谷口 知聡

(ピアノ・パリ在)



時が経つのは早いもので、パリで迎える4度目の冬を過ぎています。貴財団の大きな御力添えのおかげで叶えることのできた渡仏の夢ですが、環境や周りの人々との関係の中で自分の立ち振る舞いが少しずつ定着してきたこの頃、今だからこそ見えてきた

本来の課題や、これから一歩先に踏み出すために今必要な行動について、新たに考え向き合わなくてはならない時期にあると感じます。いただいている機会に心から感謝しつつ一つ丁寧に向き合いながら、同時にこれまで以上に大きく前進していけるよう、本年も一心に精進してまいります。

阪田 知樹

(ピアノ・ハノーファー在)

2025年には、初めて自作の管弦楽作品を発表する舞台をいただきました。あわせて2曲のピアノ協奏曲を弾き振らせていただく機会にも恵まれ、新たな挑戦の年になります。また、リストのピアノ協奏曲4曲を演奏するコンサート、ショパンの12の練習曲Op.10&Op.25をまとめて取り上げるサイタルにも挑みます。充実した一年にしたいです。

北田 千尋

(ヴァイオリン)

広響コンサートマスターに就任し、東京と広島島の2拠点生活が始まりました。新しい作品との出会い、素晴らしいソリストや指揮者から得るイ

ンスピレーション、目まぐるしい毎日ですがとても充実した日々を送っています。合間には今まで取りそびれていた車の免許も無事取れました！演奏もさらに活動的に頑張りたいと思います。

2022年度助成

和田 悠花

(声楽・パルマ在)

先日ミラノのスカラ座で当日券を購入するために朝から並びました。9時に行くと私は2番目でしたが、1番に並んでいた方から20年前に上演された同じ演目のパンフレットを見せていただいたり、3番目の方から「日本には劇場がいくつあるの？」と聞かれて話したり、オペラを愛する方々と交流ができて楽しい1日でした。

松村 由慶

(ピアノ・ザルツブルク在)

昨年もコンクールへの挑戦やコンサートの出演等実りの多い時間を過ごしました。現在は同大学にて室内楽科として勉強を続けております。留学をしてから自分の中で考え方や価値観が大きく変化しました。この経験が社会の役に

立てるようさらに精進していく所存です。ここまで多大なるご支援をいただきまして本当にありがとうございます。

東方 理紗

(オルガン・ザルツブルク在)

フライブルク音楽大学にて修士課程に引き続き国家演奏家資格課程に進学し、現在は交換留学生としてザルツブルク・モーツァルテウム大学に在学しています。オーストリアではドイツ語が使われておりドイツとの共通点が多いと感じる一方で、発音や用いる語彙の違い、生活する上での異なる点なども発見します。音楽や文化が豊かで、そして自然が美しいこの街の文化に触れながら日々学びを深めたいと思います。

香月 麗

(チェロ・パリ在)

昨秋からパリ国立高等音楽院の室内楽科に在籍し、上田晴子氏とルイ・ロッド氏の下でデュオを学んでいます。貴団の研修生だった昨夏に、パリ管弦楽団のアカデミーに参加したことをきっかけにパリ管のエキストラの依頼をいただくようになり、コミュニティ

イが少しずつ広がっています。今年2月には以前よりあったためいたチェロ無伴奏とギターデュオのリサイタルが東京と奈良で実現します。フランスと日本で新しい挑戦を続け、精進していきたいと思っています。

岡本 侑也

(チェロ・ミュンヘン在)

大変お世話になっております。みなさまお元気でしょうか。エベーヌ弦楽四重奏団に加入してから約1年となりましたが、毎月カルテットのコンサートのため、ヨーロッパを中心に世界各地で演奏させていただいております。2025年3月には日本公演を予定しておりますので、カルテット一同とても楽しみにしております。

2024年度助成

熊木 夕茉

(声楽)

11月に公演の日生劇場主催、オペラ《連隊の娘》の稽古に励む刺激的な毎日を送っています。音楽と台本に真摯に向き合って進む作品作りはとても楽しく、オペラデビューに向けてとてもわくわくしています。

ています。また、留学に向けて、既に海外で活躍されている方々にサポートをいただきながら準備を進めております。

鈴木 優輔

(ピアノ・パリ在)

パリ国立高等音楽院の第二課程を修了し、留学生生活3年目を迎えました。現在はパリ地方音楽院のコンサートコースに在籍し、ソロや室内楽に取り組んでいます。教授や仲間と意見を交わしながら音楽を創り上げていく過程は、かけがえのない時間です。恵まれた環境で学ばせていただけることに感謝し、より一層精進してまいります。

森田 啓佑

(チェロ・ベルリン在)

ザール音大、ハノーファー音大を経て、現在リユーベック音大に在籍しています。異国の地で多様な価値観に触れる中、人間には「幸福になりたい」という本能があると気づきました。文化や考え方の垣根を越えて、生命の土台である本能に響く音楽をめざしています。聴いてくださる方々が幸せを感じる演奏をめざして邁進してまいります。

三星 美優

(クラリネット・パリ在)

パリの建物の美しい景色、食べ物に囲まれ、驚きと感動に満ちた毎日を送っております。レッスンはもちろんのこと、室内楽や音楽文化、アナリーゼの授業でも毎回新たな視点からの発見があり、ここ数ヶ月だけでも成長を実感できるほど、大変有意義な時間を送っています。この環境に感謝して日々精進したいと思います。



(敬称略)

16